

2025 年 7 月 吉日

調布市、狛江市の認知症の人と家族の支援に関係する機関
責任者 殿

研究代表者

東京慈恵会医科大学医学部看護学科

老年看護学 教授 梶井 文子

研修機関としてのご協力のご依頼

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。日頃より大変お世話になっております。

超高齢社会の現在、認知症の人とその家族への支援は、今後さらに重要な支援となっていきます。住み慣れた地域で助け合える共生社会の実現のために、潜在看護師の再教育プログラムを開発しました。ぜひ研修機関として、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。 敬具

—記—

1. 研究課題名：コロナ禍後の認知症の人と家族への継続的支援を担う潜在看護職を活用した地域システムの創生—潜在看護師への再教育プログラム実施評価（パイロットスタディ）（看護学科研究費）
2. 研究目的：COVID-19の影響を受けた（以下、コロナ禍後）認知症の人と家族への継続的支援を担うための再教育プログラム（3 か月間 E-ラーニングで 15 コンテンツ学習と討議学習を終了済）を受講した潜在看護師が、研修協力機関での活動に参加することでの双方のメリットやデメリット、潜在看護師の再教育プログラムの継続のための課題や改善点を明らかにすることです。
3. 研究対象機関と対象者：調布市、狛江市における認知症に関する保健・医療・福祉施設とその常勤の専門職の方々です。専門職とは、医師、看護師、介護支援専門員、介護福祉士、介護職、精神保健福祉士、相談員、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等を指します。
4. 研究方法：再教育プログラムの一部に施設や地域等での様々な活動での研修を検討しています。研修中の指導とその後のアンケート調査にご回答いただきます。
右のQRコードから、研究の趣旨（潜在看護師の再教育プログラムを含む）についてご説明をいたしますので、ぜひご覧ください。
HP内の専用申し込みフォーム（右のQRコード）からご応募ください。
5. 研究協力の謝礼：研修の指導に関わられた専門職1人につき10,000円
6. 研究協力の任意性：本研究への協力は任意のものです。後日、同意取得のための説明文書を用いてご説明してから同意の上で研究（調査を含む）にご協力いただきます。
7. 再教育プログラムならびに研修期間（調査の時間を含む）：2025年8月～2026年1月末
研修の参加時期は9月頃から2026年1月
8. 申し込み締め切り：2025年7月31日（募集施設数によっては変更する場合がありますので、詳細はHPをご覧ください。）
9. 募集機関数：15機関程度
10. 問い合わせ先：メール（kajii-kaken@jikei.ac.jp）
電話 03-3430-8686 内線 2765 留守電の場合には、お名前と電話番号を録音に残してください。後日に梶井よりご連絡いたします。



以上